

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

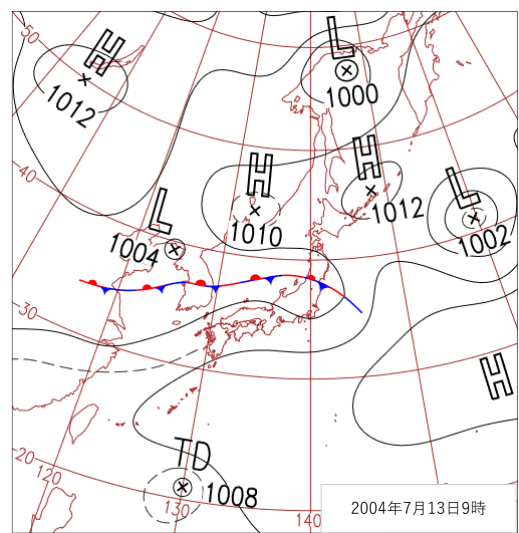
【平成16年7月新潟・福島豪雨】平成16（2004）年7月13日の大雨

梅雨前線の活動が活発化、中越を中心に記録的な大雨

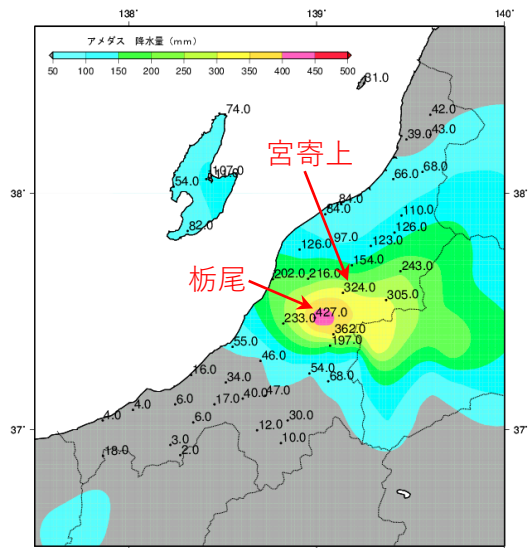
【概要】

平成16（2004）年7月13日、日本海からのびる梅雨前線が北陸地方に停滞し、太平洋高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった。7月12日夜から雨が降り始め、北陸沿岸で発生した雨雲が新潟県中越から福島県会津を中心に次々と流れ込み、特に、中越では13日朝から昼頃にかけて1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降った。降り始めからの総雨量は、長岡市栃尾で427ミリ、加茂市宮寄上で324ミリを観測するなど、狭い範囲で記録的な大雨となった。

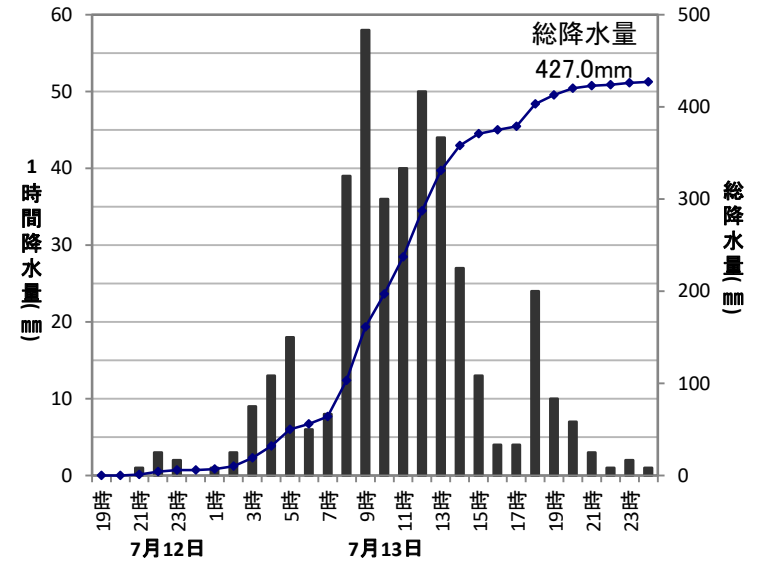
この大雨により、五十嵐川、刈谷田川、中之島川など計11か所で堤防が決壊し、三条市、見附市、中之島町（現長岡市）を中心に浸水被害が広範囲に発生した。浸水害や崖崩れによる家屋倒壊等により、死者15人の被害が発生した。（被害状況は、「災害時気象速報」気象庁による）



地上天気図 平成16年7月13日9時



平成16年7月12日19時から13日24時までの総降水量（ミリ）



長岡市栃尾の毎時降水量 (7月12日19時から13日24時)